

学習評価について（高等学校国語科）

観点別学習状況の評価の観点の整理

資質・能力の三つの柱に基づいた目標や内容の再整理を踏まえて、観点別学習状況の評価の観点については、小・中・高等学校の各教科等を通じて、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点到整理されました。

< 現行 >

- 国語への関心・意欲・態度
- 話す・聞く能力
- 書く能力
- 読む能力
- 言語についての知識・理解

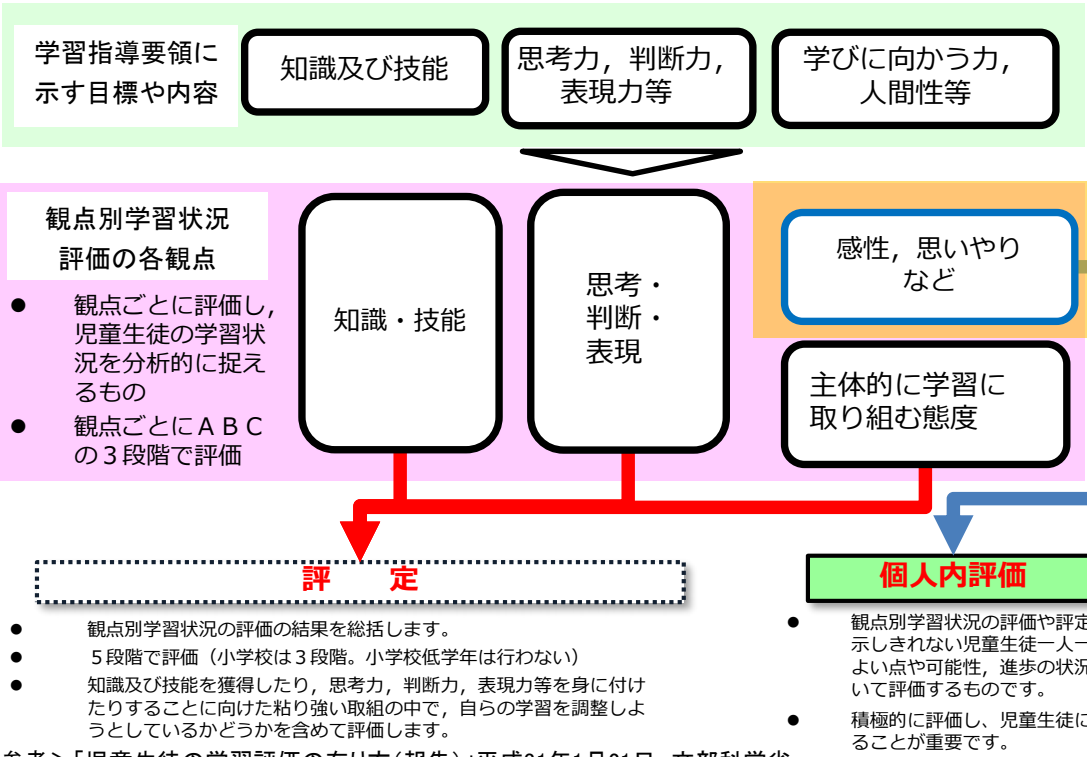
< 新 >

- 知識・技能
- 思考・判断・表現
- 主体的に学習に取り組む態度

再整理された
現在の5観点で評価して
いた指導事項が3観点到

学習評価の基本構造

各教科における評価は、学習指導要領に示す各教科の目標や内容に照らして学習状況の評価するものです。（目標準拠評価）したがって、目標準拠評価は、集団内での相対的な位置付けを評価するいわゆる相対評価とは異なります。



「内容のまとめりととの評価規準」作成の手順

① 学習指導要領に示された教科の目標を踏まえて、「評価の観点及びその趣旨」が作成されていることを確認する。（「改善等通知」記載）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使っている。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通じて積極的に他者と関わったり、思いや考えを深めたりしながら、言葉のもつ価値への認識を深めようとしているとともに、言語感覚を磨き、言葉を効果的に使おうとしている。

② ①を踏まえて、科目の目標に対する「評価の観点の趣旨」を各校で作成する。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようしている。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。

③ 「内容のまとめりと」と「評価の観点」との関係を確認する。

「内容のまとめり」		
【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	
(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	A 話すこと・聞くこと	
(2) 情報の扱い方に関する事項	B 書くこと	
(3) 我が国の言語文化に関する事項	C 読むこと	
↓ ↓		
「評価の観点」		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

④ 【観点ごとのポイント】(裏面参照)を踏まえ、「内容のまとめりととの評価規準」を作成する。

※国語科においては、「内容のまとめりととの評価規準」を「単元の評価規準」とすることが出来ます。

指導と評価の計画 例

＜参考＞『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』国立教育政策研究所
(令和2年8月)

4 指導と評価の計画 (全6単位時間想定)

次	主たる学習活動	評価する内容	評価方法
1	○ 単元の目標や進め方を確認し、学習の見通しをもつ。 ○ ジャンルを問わず、原作のある様々な作品を想起し、原作との共通点や相違点、改変の意図があることなどに気付く。 ○ 近代以降の文学作品を通読し、「初読の感想」を記述する。 ○ 原作を読み、作品との共通点を中心に、両作品の関係について考えたことをノートに記述する。	[知識・技能] ①	「記述の点検」
2	○ 原作と作品とを比較し、相違点や新たに付け加えられた点の指摘を通して、表現効果などについて考えたことをワークシートにまとめる。 ○ 原作と作品との比較を通して、作品の特徴や考えられる書き手の意図などについて考え、発表する。	[思考・判断・表現] ①	「記述の点検」
3	○ 原作の改変による作品の創作において、原作を素材に選ぶ意図と効果などについての自分の考えをもち、ノートにまとめる。 ○ 振り返りシートの記述を確認し、単元全体の学習を振り返る。	[思考・判断・表現] ② [主体的に学習に取り組む態度] ①	「記述の分析」 「記述の確認」

【単元の流れ】

次	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
1	《一部省略》 ○ 近代以降の文学作品である芥川龍之介「羅生門」を通読し、「初読の印象」を400字程度でまとめる。 ○ 「羅生門」の原作とされる「今昔物語集」巻二十九第十八「羅城門の上層に登りて死人を見たる盗人のこと」を読み、共通点を指摘し、両作品の関係について考えたことをノートに記述する。	・ 特に原作との相違点に着目させ、書き手の意図やねらいがあることに気付かせる。 ・ 「今昔物語集」については、必要に応じて現代語訳も使用する。 ・ 両作品の共通点への着目を通して、「今昔物語集」が「羅生門」の原作であることが指摘できる根拠を考えるように促す。	「単元の評価規準」について、評価する場面と評価方法、「Bと判断する状況の例」を示します。 [知識・技能] ① 「記述の点検」ノートの作品と原作とを読み比べ、両者の共通点など、改変の根拠が指摘できているかを点検する。

「知識・技能」①「B」と判断する状況

両作品の共通点や類似点のうち、人物や舞台設定、構成や展開など物語の骨格に具体的に言及しながら改作だと主張している。「C」⇒断片的記載。具体性に欠くもの。「A」⇒「B」のうち、特に優れたもの

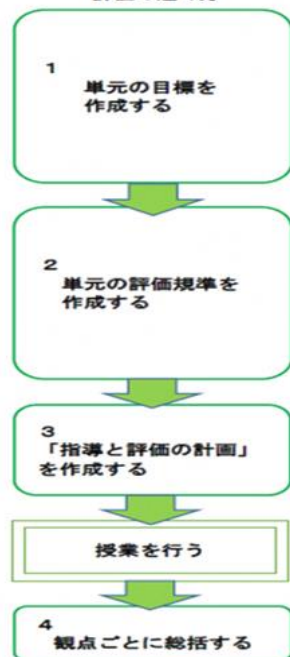
《本授業例における評価の実際》

5 観点別学習状況の評価の進め方

共通必修教科目「言語文化」の「内：降の文章に関する指導については、

これ以降は、上記『参考資料』第3編p.88～92をご確認ください。
「指導と評価の計画」に沿ってどのように評価したのか、評価場面・観点別に詳しく記載されています。

評価の進め方



国語科 事例6 (言語文化)

キーワード 「思考・判断・表現」の評価、複数の材料や方法による評価

単元名

近代以降の文学作品をその原作と読み比べ、作品の特徴について考えよう

内容のまとめ

[知識及び技能] (1)言葉の特徴や使い方に関する事項
[思考力、判断力、表現力等] 「B読むこと」

《授業例》

1 単元の目標

- (1) 言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解することができる。 [知識及び技能] (1)ア
- (2) 作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めることができる。 [思考力、判断力、表現力等] B (1)エ
- (3) 作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつことができる。 [思考力、判断力、表現力等] B (1)オ
- (4) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。 [学びに向かう力、人間性等]

「学びに向かう力、人間性等」は、『学習指導要領』当該科目の目標 (3) を参考に作成します。

2 本単元における言語活動

近代以降の文学作品をその原作と読み比べ、作品の特徴について発表したり改作について論じたりする。 (関連：[思考力、判断力、表現力等] B (2)ウ)

※【観点ごとのポイント】

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 (1)ア ※当該単元で育成を目指す資質・能力に該当する[知識及び技能]の指導事項の文末を「～している」として作成する。指導事項の一部を用いて作成することもある。	①「読むこと」において、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 (B (1)エ) ②「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。 (B (1)オ)	①作品とその原作との読み比べを通して、積極的に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつ中で、自らの学習を調整しようとしている。

※冒頭に、指導する一領域を「(領域名)において」と明記し、文末を「～している」として作成する。指導事項の一部を用いて作成することもある。

※以下の①から④の内容を全て含め、単元の目標や学習内容等に応じて、その組合せを工夫する。
①粘り強さ(積極的に、進んで、粘り強く等)
②自らの学習の調整(学習の見通しをもって、学習課題に沿って、今までの学習を生かして等)
③他の2観点において重点とする内容(特に、粘り強さを発揮してほしい内容)
④当該単元の具体的な言語活動(自らの学習の調整が必要となる具体的な言語活動)